

年頭の挨拶



警察庁生活安全局長 山田 好孝

令和8年の年頭に当たり、日本防犯設備協会及び会員の皆様並びに防犯設備士の皆様には、健やかに新年を迎えるましたことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、犯罪の起きにくい社会づくりに向け、日夜たゆまぬ御努力をいただいておりますことに対し、心から謝意を表する次第であります。

さて、昨今の治安情勢を見ますと、刑法犯の認知件数は、戦後最少となった令和3年以降、増加傾向で推移し、無差別に人を殺傷する突発重大事案や重大な人身安全関連事案の発生がみられるなど、極めて深刻な情勢にあります。

特に、匿名・流動型犯罪グループは、被害が著しく拡大している特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺を始め、治安上の課題となっている事犯の多くに深く関与しており、その対策の成否が我が国の治安に大きな影響を与えると言っても過言ではありません。

警察といたしましては、匿名・流動型犯罪グループに対して検挙と抑止を含む総合的な対策を一元的かつ強力に推進するなど、治安上の諸課題に的確に対処できるよう組織の総力を挙げて各種の取組を推進しているところであります。

他方で、安全で安心して生活できる社会は、独り警察の取組だけで実現できるものではありません。犯罪の起きにくい社会づくりに向け、皆様をはじめ、関係団体、事業者、地域住民の方々が、より一層連携・協働して防犯活動に取り組み、地域全体の防犯力を強化していくことが極めて重要であると言えます。

具体的には、防犯カメラ等の防犯機器・防犯設備の普及や建物の構造を犯罪防止に配慮したものにするハード面の対策はもちろん、広報啓発等の防犯意識の向上に向けた取組を始め、地域住民や事業者による自主防犯活動への支援などソフト面の対策を併せて推進していく必要があります。

皆様におかれましては、これまで防犯カメラや防犯灯等の優良な防犯機器・防犯設備の普及促進、また防犯優良マンション認定制度の推進といったハード面の対策に加え、防犯アドバイザーによる防犯講話等のソフト面の対策についても積極的に取り組まれ、安全で安心して生活できる社会の実現に向け幅広く御活躍いただいていると承知しております。引き続き地域社会と連携したハード面、ソフト面双方の対策に取り組んでいただき、安全で安心な社会に向けて御尽力いただきますようお願い申し上げます。

また、貴協会の中核事業であるRBSS（優良防犯機器認定制度）においては、自治体や関係機関等に対して周知を図り、着実な成果を挙げておられることに、心から敬意を表するとともに、地域社会の防犯対策において、更に大きな役割を果たしていただけることを期待しております。

結びに、本年が皆様にとりまして、良き年となりますよう御祈念申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。